

狭山市議会議長  
加賀谷 勉 様

視察議員氏名 高橋ブラクソン久美子

## 視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 2019年 11月 18 日～ 年 月 日(泊日)  
2 視 察 先

入間市：ホスピタリティハウス 青い鳥

### 3 調査事項

設立の経緯 施設の概要 現状・現況

### 4 調査概要

#### 1. 設立の経緯

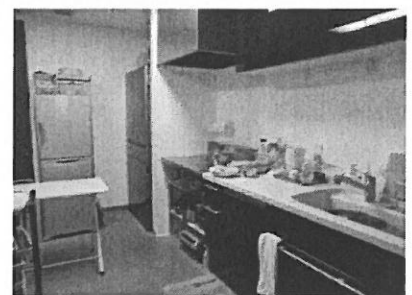
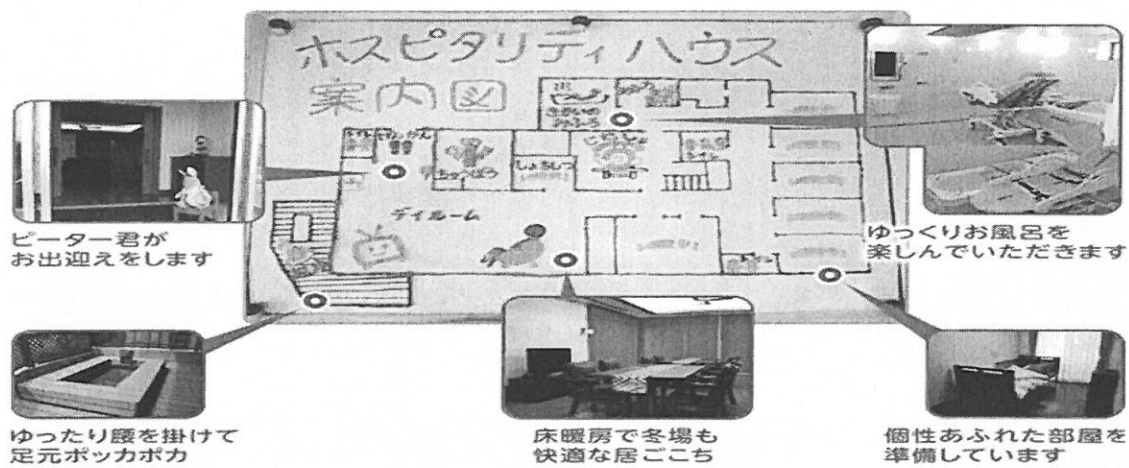


この施設の母体は医療法人一晃会である。小林病院長で医療法人理事長の小林良樹氏が事業所の設立を決断し、ホスピタリティハウス青い鳥を2016年10月1日に設立・オープンした。この施設は看護小規模多機能型居宅介護事業所である。通いサービス、宿泊サービス、訪問サービス、看護サービスを提供する。

介護小規模多機能居宅介護とは、複合型サービス(13種の内2つ以上)を供給し、訪問介護と小規模多機能居宅介護を合体させたサービスといえる。厚労省によれば訪問看護+小規模多機能型居宅介護=看護小規模多機能型居宅介護となる。

#### 2. 施設の概要

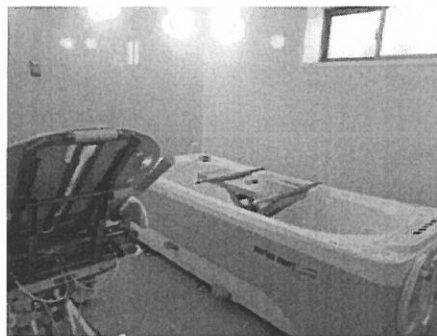
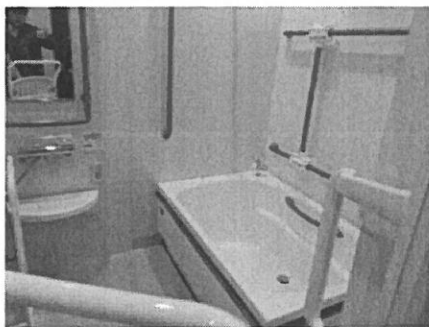




(リビング) (宿泊室) 部屋の内装が微妙に違う。(キッチン)

1階には利用者の使う場所がある。2階部分は訪問看護センターが入っていた。施設の特徴は、宿泊部屋が一部屋ごとにカーテンや壁紙が違っている事。陽がよく当たり、新しい施設なので綺麗・清潔に維持されていた。風呂は個別に入る風呂と、機械風呂があり、介護度の高い利用者に喜ばれているとのことだった。

定員は19人。29人までが登録可能。宿泊は9人まで可能。通いのサービスは15人以下。



介護保険が適用されるが、宿泊費(2500円/日)、日常生活費(300円/日)、食材費用(1650円/日)洗濯(1ネット500円/日)通院介助(要介護度による)等が掛かる。

ここは看護小規模多機能居宅介護施設なので、医療処置を施す事が出来る。例えば、医療機関を使用している方で、胃ろう、気管切開管理やカテーテル管理が行え、床ずれなどの方の創傷処理、リハビリ、呼吸や足ケアが必要な方への酸素使用・浮腫み、白癬処置などが可能である。それゆえに、ここは小規模多機能居宅施設に比べたら、高額であるという。

### 3. 現状・現況

利用者は要介護1が1人、2が3人、3が2人、4が4人、5が7人である。利用者は毎日来るわけではなく、17人が全員利用するという事ではない。その内、宿泊サービスを利用している人は7人いるが、毎日利用してはいない。少なくとも1月に1日は自宅に帰らなければならない。入間市内だけでなく、所沢市の方も利用されている。

つぎのような医療処置がなされている。胃ろう管理4人、気管切開管理1人、カテー

テル管理3人、創傷処置2人、酸素使用3人、呼吸器管理1人となっている。

2階にある訪問看護ステーション青い鳥には13人の看護師が常駐しており、訪問看護を行っている。その中の2人がホスピタリティハウスの係りとなる。夜中に何かがあれば、宿直のヘルパーから看護師に電話が入るシステムである。

私はこのような施設が狭山市にもあるべきではないかと考えた。特に、「狭山市の方からも利用を依頼されたが、現状の体制では遠くの送迎は出来ないので断った」と聞いたときには、悲しくなった。狭山市にも是非看護小規模多機能居宅介護施設が必要であると思った。医療処置が必要な方は病院以外に行く場所がない。普通のデイサービスでは断られる。出来れば、入院ではなく普通の状況で過ごしたいと願っても、医療のケアが必要な人には、出かける場所もない状況が増えてくると思う。それらの方々のためには、それ相応の施設も必要になってくるというものである。狭山市にも看護小規模多機能居宅介護施設が是非必要だと痛感した。